

Q1 後部座席同乗者512人中、シートベルトを着用していなかったのは何人でしょうか？



子どもはチャイルドシートを使用しているが、隣に座る女性はシートベルトを着用していない



- 観察場所／千葉県船橋市浜町2丁目付近
- 観察日／2006年11月3日（金曜日）
- 観察時間／10:50～12:50

Q2 時速40kmでクルマが固いコンクリート壁に衝突した時、後部座席でシートベルト非着用の場合、車内前方に身体が投げ出されてしまう。この時にかかる力は、自分の体重の何倍以上になるのでしょうか？

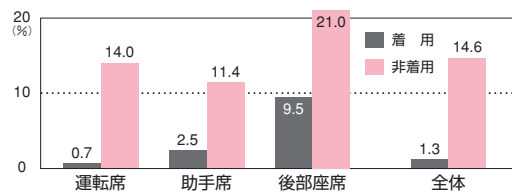
シートベルト非着用者は、車外放出の割合が高い

こんな事故が起きています

平成18年中の自動車乗車中の死者のうち、シートベルト着用者が車外放出になった割合は1.3%であったのに対し、非着用者は14.6%だった。

また、自動車乗車中に車外放出になった場合の致死率は、自動車乗車中全体の致死率（0.34%）の80.3倍と高い。シートベルトの着用が、致死率の高い車外放出の危険性を低くしている。

座席位置別・シートベルト着用有無別死者の車外放出構成率（平成18年中）



道路交通法 [改正]

後部座席シートベルト着用が義務化へ

普通自動車等の運転者の遵守事項
(法71条の3第2項抜粋)

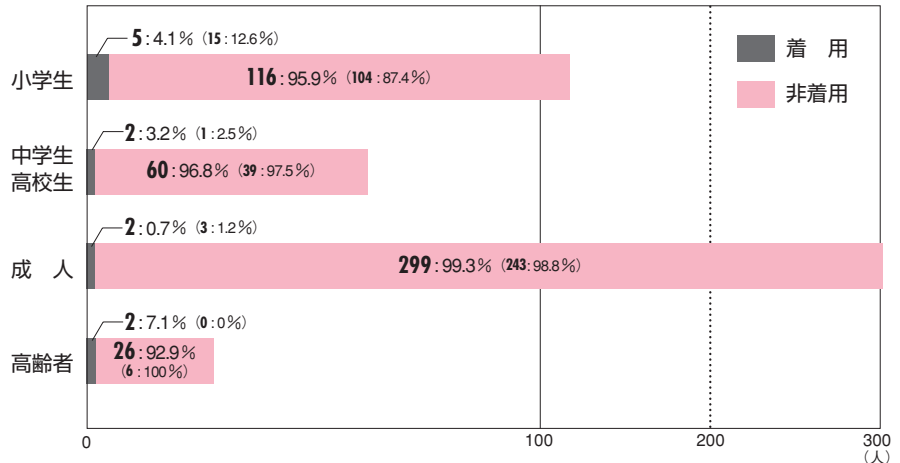
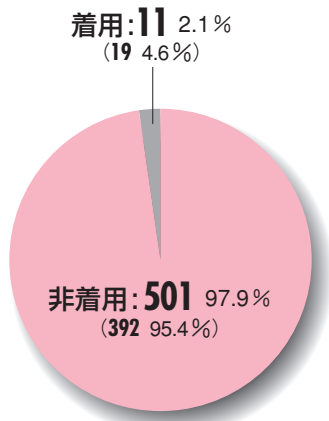
自動車の運転者は、シートベルトを装着しないものを運転者席以外の乗車装置に乗車させて自動車を運転してはならない。

ただし、幼児をチャイルドシートに乗車させるとき、疾病のためシートベルトを装着させることが療養上適当でないものを当該乗車装置に乗車させるとき、その他政令で定めるやむを得ない理由があるときはこの限りでない。

……実際に観察しました

Q1 の解答 501人 (97.9%)

●後部座席同乗者のシートベルト着用状況 ※カッコ内の数字は2005年の観察時(2006年:512人中/2005年:411人中) ※乗用車のみを観察



※小学生(7~12歳)、中学生・高校生(13~18歳)、成人(19~64歳)、高齢者(65歳以上)の判断は観察者の見解による

2時間の観察で後部座席同乗者がいたクルマは444台。小学生以上の後部座席同乗者は計512人だった。その内シートベルトを着用していたのは、11人(2.1%)だった。

小学生では、車内で立ち上がって遊ぶなど、ジッとしていない子どもも目立った。また、成人でも、前席の人と話をしている際に、背もたれに寄りかからず



前席に身を乗り出すなど、ジッとしていない人も目立つ

に身を乗り出している様子が観察された。

シートベルトを着用していた11人の内、小学生が5人で、中学生が2人。成人、高齢者の着用者の4人はいずれも女性だった。高齢者のうち1人は、介護施設の送迎車両に乗っていた。

CLOSE UP

小学生のシートベルトの着用率が低下

観察日の約1年前の2005年11月23日に同じ場所で同様の観察を行った。前回の全体の着用率は4.6%で、今回は2.1%と着用率が低下した。特に目立つのは、小学生の着用率の低下で、前回の12.6%から、4.1%へ低下した。

Q2 の解答 約30倍

(体重50kgの人では約1.5tものエネルギーで車内前方に投げ出される)

【解説】(社)日本自動車連盟(JAF)の実験では、後部座席でシートベルト非着用のダミー人形が、前の座席にぶつかり、前席の乗員を押しつぶす様子が確認された。つまり、後部座席の人がシートベルト非着用の場合、前席乗員に被害を加えてしまう可能性もある。

((社)日本自動車連盟(JAF)資料)

ここがポイント

●すべての座席でシートベルトを着用する

ワンポイント ADVICE

全席でシートベルトを着用しよう

平成18年の交通事故の発生状況では、後部座席において、シートベルトを着用していた人に比べて非着用者の致死率が約3.8倍と高い。シートベルトの着用は、交通事故の際に負傷の程度を軽減させるために有効だ。

警察庁と(社)日本自動車連盟(JAF)が平成18年10月に行った「シートベルト着用状況全国調査」によると、シートベルトの着用率は、一般道路では、運転席93.8%、助手席83.4%、後部座席7.5%。高速道路では、運転席98.2%、助手席93.0%、後部座席12.7%だった。後部座席シートベルトの着用率は、運転席や助手席に比べて低くなっている。

(警察庁、(社)日本自動車連盟資料)